

## 令和元年度第1回柴田町男女共同参画推進審議会 議事概要

### 【日 時】

令和元年8月29日（木） 午後1時30分から午後3時まで

### 【場 所】

柴田町役場 4階 委員会室

### 【出席者】

柴田町男女共同参画推進審議会委員 7名 ※3名欠席  
事務局（柴田町まちづくり政策課） 2名

### 【資 料】

- ①令和元年度第1回柴田町男女共同参画推進審議会次第
- ②令和元年度第1回柴田町男女共同参画推進審議会協議の進め方について
- ③第4次しばた男女共同参画プランに基づく平成30年度事業実績及び  
平成31年度・令和元年度事業計画 施策事業評価シート
- ④平成30・31年度 柴田町男女共同参画推進審議会委員名簿

### 【内 容】

進行：事務局

※審議会は公開とされているため、録音機器で協議を録音したものをもとに議事概要を作成し、町ホームページで公開する旨を説明。

### 【議 事】

#### 1. 開会

#### 2. あいさつ 会長挨拶

皆さんこんにちは。今年の夏はとても暑かったです。

今日の会場は久々の使用ですが、4階のとても眺望の良い場所です。いろんな施策について、時には鳥瞰しながら皆さんの意見を受け賜りたいと思います。

私事ですが、今週の日曜日に福島の飯館村の福祉チャリティー祭りに学生達と一緒に参加しました。看護学生と保健福祉の学生合わせて30名くらいがバスに乗って行きましたが、飯館村は放射線被害があって、一年前くらいに帰村宣言をした村ですが、高齢者しか帰村しておらず、外から村を支援しようということで、とても良い企画がたくさんありました。思いのほか外の村から、外の町から参加者が多く、ああいった企画もとても良いものだなと感じました。

さて、私たちの手元にもとても立派なパンフレットやリーフレットができあがっています。今日の審議の大切な部分です。どうぞよろしく願いいたします。

### 3. 議題（審議）

#### （1）第4次しばた男女共同参画プランに基づく平成30年度事業実績及び平成31年度・令和元年度事業計画について

～事務局から平成30年度事業実績及び

平成31年度・令和元年度事業計画について報告・説明～

《会長》

審議委員には事前に計画書及び実績について郵送でもらいましたので、今改めて事務局から全てではありませんけれども、主なところ、追加事項等のある計画についてご説明を受けました。委員の皆様はそれぞれのいろんな立場から選出されておりますので、様々な得意分野があり、ぜひこの分野は意見を申し上げたいとかがあろうかと存じます。皆さんと時間を共有して有意義なものにしていきたいと思います。

それでは、鈴木委員から何かご意見あればよろしく願いいたします。

《委員》

各課いろいろやってきている中で、進んでいるところと全然進んでいないところが毎年同じようなので、平成28年度からやられてきていると思うので、できていないところは何かできていないんだろうというところを、やっぱり反省をして、どうしたらできるのか考えるべきだと思います。例えば女性の認定農業者、これも継続して呼び掛けていますがほとんどゼロです。農業をやっている人の集まりで言っても響かないと思うんですよ。チラシをもらっても、すぐどこかに捨ててしまう感じになるので、方法を変えていかないと。目標値1人にしても、ずっとゼロなんじゃないかなと。

《会長》

それに関して、目標の設定の仕方がちょっと厳しかったのかなとか、これでいいのかなというふうな考え方が少し見受けられるのですが。

それでは鈴木委員だったら、今おっしゃったことに関して、今回も計画があがっていますけれども、こんな形で誘導していったらいいのか、具体策はございますか。

《委員》

認定農業者に関しては、実際やっぱり難しいことは難しいんです。該当する基準とかいろいろあるので、それをピックアップして、そこに応募して。でないとやはり1回、2回では無理なので、3回、4回、5回と行って、本当にそれで逆にしつこいくらいなんじゃないかなと思うんですね。昔と変わってきているので、その認定農業者を推進するのはどうなんだっていう部分があります。

《会長》

その認定を取れそうな人、何人かはいるだろうから、その方に直接ピンポイントに指導したり、交渉したり、ちょっと一歩踏み込んだ介入の仕方をやっているのかどうかということですね。ただ、積極的に推進しますという漠然とした計画ではなくて、今現在何名くらいの方が、そこまでまとめられたかということですね。

ということで、このあと事務局から担当課にフィードバックしてください。具体策がなくてないということですね。そして、介入の手法もただ漫然とチラシを配るみたいな、そんなことでは上がってこないよということですね。認定になることによってメリットはあるのでしょうか。

《委員》

認定になれば、例えば何か借りるときとか、安く借りられたり、あとは0金利ということもできます。

《委員》

認定農業ですが、認定農業のやり方は従来の農業のやり方なんですよね。今若い人がいて、考え方が相当違ってきているというのがありまして、自然に、肥料を極力使わないで自然と共存しながらやっていこうというのが強くなってきているんじゃないかと。すると、今までのやり方とは根本的に違ってくる。だからこの認定基準っていうものが、本当に今の世代に合っているものか、これからのニーズに合ってくるのかというのは、相当疑問に思うんですね。認定の基準っていうのが、例えば今までやってきた農業が本当に正しいのだろうか、いいのかどうかっていうその基準を、若い人に担っていくためには、見直す時期にきているのではないかなと思いますね。

《委員》

認定農業の基準は昔のままだと思います。やっぱり今言ったように、時代時代で変わってきているので、それをこう変えていかないとだめだっていうのはわかってるんですけども、県があるものですからなかなか。

《会長》

県が推奨しているんですか。

《委員》

県のほうからある程度の推進はしているけど、やっぱり基が変わらなとなかなか。「仕事なんざば、農政課がなんざば」とこう言っても、変わらないと思います。

《会長》

とても複雑な、いろいろな議題がたっぷりあるということですね。

私は看護の人間ですけれども、認定看護師、専門看護師と資格を持った専門職が適切なアドバイス等をして看護の質を上げようとしています。

一つの町の施策としては必要だという事なんでしょうかね。

では、長谷川委員いかがでしょうか。

《委員》

私これを読ませていただいて、各課忙しい中いろいろとやっているんだなというところを今回感心しました。

それで2ページ目のセミナーです。今年度8月22日に開催されたときに何人くらい参加されているのかなと疑問に思いました。

1ページの町内の企業の方で受講者がいなかったとありますが、開催しているのに町内の企業から参加者がいないっていうのはもったいないので、もう少し参加を呼びかける事はできないのかなと感じました。

それから全体的に、うちもシルバーで人手不足でなかなか人がいないのはどこでも一緒なのかなというところで、どこを見ても人手不足を感じました。シルバーも仕事をいただいても行ける会員さんがいないとか、専門がないところで苦しんでいるのですが。

保健師さんの11ページ。採用にならなかったっていうんですが、11ページの、安心して暮らせる環境の整備のためにこういう方たちを採用したいなと思っています。やはり人手不足というか、不採用ということは、規定が合っていないなくても誰でもいいっていうわけではないと思うんですが、この人手不足はそういう環境を整備するためにも、人が足りないんだなということを感じました。以上です。

《会長》

ありがとうございました。

それでは鳴海委員いかがでしょうか。

《委員》

すみません。あまりにも字が細かいところがあって、よく読めませんでした。ちょっと目を通さないところもあるんですが、12ページのホームヘルパーを派遣するということに興味がありまして、28年度は本当最近ですよ。その時は全然利用者がいなくて、30年度が9件ということで、柴田町がホームヘルパーを派遣できなかったという、いろんな意味での理由、意味を含めて、世間もいろいろありますよね。悲惨な事件とかがありますよね。そういう意味では柴田はどうなんでしょうか。

《会長》

それは事務局に質問ですか。事務局いかがでしょうか。

《事務局》

前回ですかね、2月くらいのおきも同じように鳴海委員から聞かれたと思うんですけども、そういった事例っていうのは子ども家庭課ではないと話を受けてるんですね。ただ、まだ表に出てないとかそういったのもあるので、民生委員、児童委員さん各地区にいらっしやあって、いろいろと見てもらっているんで、そういった方々と連携して、協力しながら引き続き見ていきたいと担当課では考えているようです。

《委員》

ありがとうございます。案外子育てって、新しいところに来ると孤立しがちなんですよ。私も実際何十年か前にこちらに来て、誰も知らず、本当に親戚も誰もいなかったので大変な思いをしたんですけども、偶然家の前の方がすごく親切に子育てを手伝ってくださって、それが本当に助かったんですね。だからそういう意味でも地域にいる関わりって大切だと思うので、柴田町はそういう意味では良い方向にどんどん進んでいるんじゃないかなと思います。

《事務局》

今はまだ小さな動きですけども、28、29年度に仙台で子育てしている方を講師に、柴田町の男女共同の事業をしました。そこに参加してくれた人達が、まちづくりのスタートアップの補助金など、制度を活用して、自分たちで集まれる場、そういったのをやってみようというのを、まだ小さいですけどあるので、一人で悶々としているよりもそういったところに出向いて、同じような境遇の子育て中の方々と話すのも必要かなと感じております。

《委員》

確実に、少しずつですが、良い方向に向いていると思います。私は孫を見るくらいの年齢なんですけど、自分たちが小さい頃、私の子育てに比べたらとても羨ましい条件で、少しずつ増えてきたっていうのがとても嬉しく思います。出生率が少なくなって、孤独になるお子さん、親御さんがたくさんいます。これからの柴田町のプランにとっても期待していますのでよろしくお願いします。

《事務局》

その旨、担当課にも伝えておきます。

《会長》

続いていきましょう。

大沼委員いかがでしょうか。

《委員》

この3か年のシートを見まして、非常によくできてきたなど。非常に見やすく、すっきりしていて、できているものとできていないものがはっきり課によって分かれていて、見やすいシートになってきているので、相対的には非常にやってきたことが積み重なってきてこの結果に至っているのではないかなと思います。それと、やれていない要因っていうのも何かっていうのをきちんと見定めていって、そこを改善するというのが、役場の方たちは大変なんだろうけれど、それを少しずつでも前に進めていけば、この柴田町もどんどん良い方向へ行くのではないだろうかという印象を持ちました。

男女共同参画と言いながら、女性、女性というのは時代的には終わりかなと。そろそろゴールは見えてきている時代になっていまして、10年前から打診しててもだいたいそれは古い話になってきている。女性、女性っていうのではなくて、がん検診とかでもありますよね。女性は子宮がん検診、乳がん検診はありますけれども、これ男性はなくていいのかなと。やっぱり性別で持っている機能は違うので、人として個の部分で共有して、やるべきではないのかなというふうにごく思うんですね。

女性に対するDVあるんですけども、逆パターンもあるんです。知っている方で奥さんに殴られて、本当に大変な思いをした方を実際に耳にしまして、今は本当にそういう時代なんだと。これは男性に対しても、保護とかね、そういう施策も打っていかねばならない。あと女性の場合は男性よりも非常に言葉が達者です。言葉の暴力、歳を取ると余計にそういう傾向があるらしくて、ちょっとかわいそうだなと思う場面があるんですね。こういうのが生涯の教育が必要になってくるのかなと。やっぱり人として言っちゃいけないこと、やっちゃいけないこと、もう小さい時から歳を取ってもそういったことを忘れないということが人を慈しむって言うんでしょうかね、そういう精神性のものをね、教

えられる教育というか、発信できる場があるといいのかなと思いました。事務局は大変でしょうが、こういうふうに見える化していただいたときに、どの委員でもわかる形ですの  
で有り難いと思いました。どうもご苦労様でした。

#### 《会長》

お褒めの言葉と、新しく女性、女性という言葉ではなくて、本当に男性も巻き込まなければ  
ならないといった新しい視点を今掲げられました。

それでは、大槻委員いかがでしょうか。

#### 《委員》

今回の評価シートは近隣の市町村の中でも最高の出来だと思います。というのは職員が  
役所内のどの課に移動してもこのシートを見れば「自分の課ではこんな事案を実践してい  
るのか。こんな様子で計画進行しているのか。」という事が即座に理解でき、結果仕事に取  
り組む方向性が明確に出来る事です。事務局さんの方としては字が小さくて申し訳ないと  
言っていますが、私個人としてはこの細かい字面に「これだけの事がしたいんだ。」という  
意欲を感じました。

私はこの資料を3つの観点から高く評価しました。

1つ目は、びっしり書き込んでいる課が大変多くなっているという点です。そこに書ける  
だけの仕事量そしてそれを実践してきた証をみました。

2つ目は、成果を表す数字が明確に示されている点です。今後の更なる成果はその数値を  
上げていくという方向性の明確さをみました。

3つ目は、この資料をもとに「追跡調査」が可能になるのではという点です。「自分た  
ちの課ではこの事案を追跡し今こんな成果をあげている。」というこの会の輝かしい履歴書  
みたいものがあれば本当に14、5年間の取り組みに対する誇りともいべきものですね。  
シートの体裁は事務局は「字が小さいから2ページにする」と提案していますが、私的に  
はこの一杯感がとても好きですね。

このシートの中で気になった点は今までも指摘されていましたが、農政課の件です。柴  
田町の方だけで成果を上げるのは難しいと思います。国をあげての農政行政の方向をみつ  
つ農政課には頑張ってくださいたいと思います。

次に11ページの保健師さんの確保の件ですが、人手不足とは言われていますが、正規社  
員で雇うとか、給料水準をどこに設定するか等、やはり働く人間にとってはとても大事な  
ことです。働く環境条件のレベルアップという視点に立って取り組みの継続をお願いしま  
す。町民の健康に関わる大事な事案です。2020年の成果を期待しています。

次に17～19ページ等にある子供に関する事は家庭の中の他人（役場職員等）が入って  
いくという点からもすぐに成果をあげる事は難しいと思われれます。信頼関係を築く等心の  
問題も重要になってくるのでテレビ放映の事案等みますとご苦労がわかります。

23 ページの福祉課の件ですが相談件数「4,000 人」と書かれていますが守秘義務もありますが「解決したのは何人、どの様にして、結果はどうなったか」等の具体的な内容がないと評価の判断ができません。こういった場合は書面ではなく口頭で事務方に一事例位話しておいてそれを今日の委員会で披露するという事もできます。シートを書いたから報告終了ではなく、どこまでも自分達の課の実践を理解してもらいたいという執着心も大事ですね。

31 ページの教育委員会ですが、なかなかこのテーマで授業実践まして授業公開等は昨今の学校事情では難しいと思います。行事活動等の中での事例報告等を各学校にお願いしておくのもいいですね。

とにかく 14、15 年前から町がこのテーマに取り組み確実に成果をあげつつあるという事です。この取り組みは称賛に値します。

《会長》

ありがとうございました。

では、青木委員どうでしょうか。

《委員》

直接関係あるかはわからないんですけども、最近の世相の中であおり運転っていうのがあって、その対応をどうしましょうかっていうときに、問題としては、ああいうあおり運転もそうですし、DVもそうですし、暴力行為をいつの時期に止めたらいいのかっていうことを、学校の先生やられたって方もいるんですけども、子どもの教育をやっていたときに、本当にもう小学校入ったときに、その子の将来の姿が見えるのかどうか、小学校じゃなくてもっと前なのか、この子は生まれた時からの資質で、将来はああいうことになるかもしれない。ただ、教育っていうのはそれをコントロールする能力があって植えつけてくれるのかなと思うんですね。だから、小さい時からそういう教育をどういうふうな形でできるのか、男女共同参画の中で学校教育とかいろいろな話がありますがけれども、ある意味元を断つっていうのが難しいのであれば、暴力的な性格を、どの段階でどの教育をしたら止められるのかというのを、最近のニュースを見ながら思っています。ですから、性善説とか性悪説、生まれたときはいいんだけど教育が悪いとか、生まれたときは悪いから教育で直していくしかないんだとか、私は両方あるんじゃないかなと思っています。そういうことを男女共同参画で女性女性ってばかり言うのではなくて、例えば小学校が男性と女性を一緒にして教育するようになった、本当にそれが正しいのかどうか、男は男、女は女とはっきり区別させてやっていくことを考えたほうがいいのか、いろんな考え方であると思うんですけども、そういう考え方を皆で相談しあって、研究しあっていけば、共同参画の趣旨とは違うかもしれませんが、教育っていうのは大切だなと思うので、ぜひいろんな形で教育を考えていってもらえればと思います。

《会長》

青木委員の話聞いて、対話型の教育が重要視されているんですね。相手の意見を聞いて、それを幼稚だからとか言って否定しない。そんなところで教育界なりに未知の問題があがってきたとしてもどう解決できるのかっていうのは、小さい時から訓練しましょうって、そういった取り組みが行われております。

少し述べさせていただきたいんですけども、26 ページですね。それぞれの報告シートの中に予算が書いてあるもの、予算が書いてないものがあるって、時代の変遷でこのときはかなり予算がカットされたんだとか、これは上乘せかな、横ばいかなということが見受けられましたけれども、福祉避難所運営設置のマニュアル作成っていうので、測定指標はマニュアルを作成したらそれでいいという目標値が掲げられております。昨今、九州地方の大雨でもう目の前がですね、未曾有の、今まで体験したことがないような、予想だにできなかったことがニュースで飛び込んでくるんですけども、このシートからいきますと、マニュアルを作成したら合格っていうふうになります。28 年度から「マニュアルの作成は調査、検討を行います」ということが延々と続きすぎていると感じております。これは何よりもさておいてマニュアルを作ればいいわけなんですから、もうちょっと一生懸命やってもらいたいと考えます。平成 31 年度に作成し、それから令和 2 年度にはですね、プレテストっていうんでしょうか、実施してみないと本当に使えるかどうかってというのは、今、ものすごく問われていますよね。

話は飛びますが、今回仙台市は市議会の選挙がありましたけれど、そこでいつもミスが起きるので市役所の方ってプレテストちゃんとやるんですね。マニュアルを作って。どうしてあそこまで一歩踏み込んでプレテストやるのに、こういったことは市民の安心安全に直結するわけですよ。ですから、ただマニュアルを作ればいいっていうのであれば、2、3 日徹夜すればできるんじゃないかなと。作るだけではなくて、やっぱりそれを実践してみても本当に使えるマニュアルなのか点検しないと、これは本当にただ紙がもったいない、インクがもったいないと悪口を言われそうになるので、私としては、是非、ここだけは、しっかりやっていただきたい。

それから先ほど委員 2 人からご意見としてあがってきていますが、11 ページの保健師の採用。保健師になりたい学生 30 名の胸中として、病院関係の就職が、仲間たちがどんどん決まるのに、自分たちはいつまで経っても決まらないので不安を覚えて、病院の採用試験を受けちゃうんですね。そして、もうひとつはやっぱり田舎だから行きたくないとか、そういうふうな言い回しをしていて、ある教員が「田舎のほうの採用枠が 2 月くらいに空いたけどどう？」と情報提供しても、最初から田舎に行きたくない等の反応でした。保健師の新人を確保するのが難しいっていう事情があるのはわかるんですけども、若者の気質も影響しています。恐縮ですが、私の関わった卒業生がこちらでお世話になっております。そういうふうな学生もいますので、できるだけ早く公募をアップしていただければ、最初からはね、いい仕事はできないかもしれませんが、本当に保健師、やりたいという

元気な学生たちはたくさんいるはずです。そして保健師を雇うことによって、柴田町内の健康も良好な面で活躍していただきたいなというふうに思います。以上でございます。

#### **4. その他**

- ・事務局から第6次総合計画内で男女共同参画に関する事項を説明
- ・柴田町男女共同参画パネル展について案内
- ・パープルリボンについて案内

#### **5. 閉会あいさつ**

改めてご苦勞様でした。いつもに増して結構いろいろな話のできましたので、かなり今日は有意義だったのではないのかなと思います。暑い中というか、このところ天気があまり芳しくないなので、お体には十分気をつけて、風邪など引かぬように、夜寝冷え何かしないようにして、健康に過ごしてください。今日は本当にご苦勞様でした。